

2) 全国の河川における特定種等の確認状況

岡山県の吉井川でアユモドキを新たに確認

九州の筑後川でヒメモクスガニを新たに確認。

現地調査において確認された調査項目ごとの確認種のうち、環境省レッドリストの絶滅危惧 A類（ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種）に該当する種の確認状況を下表に示しました。

岡山県の吉井川でアユモドキが新たに確認されました。本種は、琵琶湖淀川水系と岡山県の吉井川・高梁川・旭川にのみ分布しますが、本種の生息には、生息場所である河川と産卵場所である水田地帯をつなぐ農業用水路との連続性や生息場となる岩場や石の間、石垣などが河川改修によってコンクリート化されていないことが重要です。吉井川は、このようなアユモドキが生息できる貴重な環境を有しています。

レッドリスト記載種ではありませんが、モクスガニの近縁種であるヒメモクスガニが九州地方の筑後川で河川水辺の国勢調査としては初めて確認されました。ヒメモクスガニは中国の沿岸から韓国黄海沿岸に分布する種です。日本では、「日本に産しない」あるいは「有明海にのみ産する」など各文献で記述が異なるなど、最近は確実な報告がありませんでした。今回の確認は非常に貴重なものと言えます。

表 平成13年度河川水辺の国勢調査における絶滅危惧 A類^{注1)}の確認種リスト

No.	調査項目	目和名	科和名	種和名	河川
1	魚類	コイ目	コイ科	ニッポンバラタナゴ	菊池川
2			ドジョウ科	アユモドキ	吉井川
3			シラウオ科	アリアケシラウオ	筑後川
4				アリアケヒメシラウオ	筑後川
5	底生動物	コウチュウ目	ヒメドロムシ科	ヨコミゾドロムシ	阿賀野川, 櫛田川, 由良川, 那賀川
6	植物		キンボウゲ科	エゾキンボウゲ	後志利別川
7			カワゴケソウ科	カワゴケソウ	川内川
8			ゴマノハグサ科	キタミソウ	江戸川
9			ゴマ科	ヒシモドキ	旭川
10			ユリ科	シラオイエンレイソウ	湧別川
11			イネ科	ホソバドジョウツナギ	釧路川
12			カヤツリグサ科	ヒメウシオスゲ	高瀬川
13				トサノハマスゲ	仁淀川
14	鳥類	コウノトリ目	トキ科	クロツラヘラサギ	六角川
15	陸上昆虫類	カメムシ目（半翅目）	ハナカメムシ科	ズイムシハナカメムシ	天神川
16			ツノヘリカメムシ科	ツノヘリカメムシ	明石川(二級)
17		チョウ目（鱗翅目）	シジミチョウ科	シルビアシジミ	揖保川
18		コウチュウ目（鞘翅目）	ゲンゴロウ科	コガタノゲンゴロウ	天神川

注1) 絶滅危惧 Aは以下の資料に基づいた。

魚類：環境省レッドリスト(1999)

底生動物・陸上昆虫類：環境省レッドリスト(1999・2000)

植物：環境省レッドデータブック(2000)

鳥類：環境省レッドデータブック(2002)

両生類・爬虫類：環境省レッドデータブック(2000)

哺乳類：環境省レッドデータブック(2002)

注2) 底生動物と陸上昆虫類については、A類とB類の区分がないため、絶滅危惧類を示した。

【アユモドキ】



(写真：岡山河川工事事務所)

アユモドキは日本固有種であり、琵琶湖淀川水系と岡山県の吉井川・高梁川・旭川水系に生息していましたが、著しく減少し1977年に国の天然記念物に指定されました。

本種は、川や池の岩場や石の間、(コンクリート化されていない)灌漑用水路の石垣の間などに隠れる性質が強く、主として朝晩に活動します。動物食で、ユスリカ、トビケラ、カゲロウなどの水生昆虫のほか、イトミミズやミズムシ、陸上昆虫なども食べます。

【ヒメモクズガニ】



(写真：筑後川工事事務所)

ヒメモクズガニはモクズガニの近縁種で、上海から北部中国沿岸、朝鮮半島黄海沿岸に産し、日本においては、「日本には産しない」あるいは「日本では有明海のみ産する」など、各文献において記述が異なるなど、近年日本での確実な確認情報はありませんでした。

本種はモクズガニのような遡上降河は見られず、浅海の泥底で生活していると考えられていますが、生態については殆ど解明されていません。

有明海には、本種と同様に、日本国内における分布は主に有明海に限られていますが、同一種または近縁な種が、朝鮮半島や北部中国の沿岸に分布している下記のような種が生息しています。(日本が大陸と地続きであった頃から残っている種と考えられる。)

魚 類：エツ、ムツゴロウ、ヤマノカミワラスボ、アリアケシラウオ等